

次期森林計画についての森林管理署の検討方向

大分森林管理署

1. 現行計画の概要(平成19年4月1日～24年3月31日)

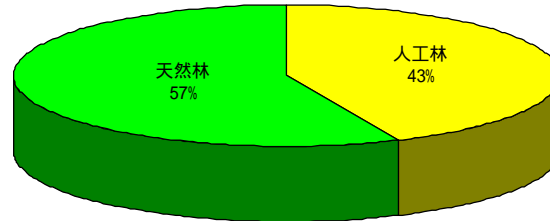
(1) 森林計画区の概要

・大分中部森林計画の対象は、県中部に位置する祖母傾山地区、くじゅう地区、三宅神角寺地区、大分地区、臼杵大野地区及び野稻岳地区から形成される国有林野15,610haです。

・計画区内の全森林面積の93%にあたり、天然林が57%、人工林が43%を占めています。

・水源かん養保安林が全体の76%に達し、大分市の水がめとして重要な役割を担っているほか、登山などの森林レクリエーションや保健休養の場として多くの人に利用されています。

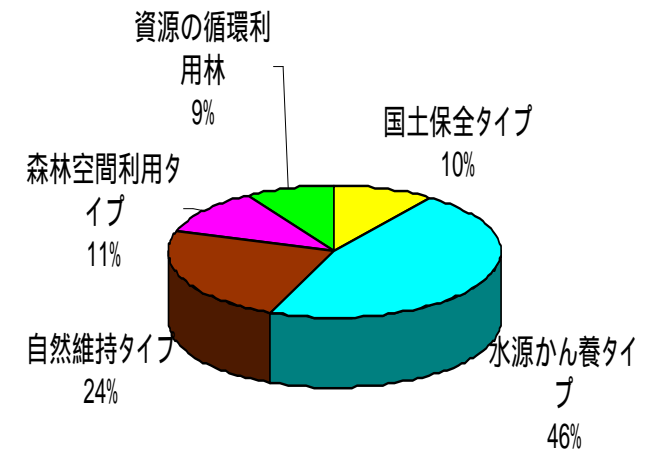
・ブナ、ミズメ、ミズナラ等の天然広葉樹林、スギ、ヒノキ人工林等からなっています。



< 機能類型別面積 >

公益的機能の維持増進を旨とする方針の下、重点的に発揮させるべき機能によって次の3つの類型に区分し管理経営を行っています。

| 区分 | | 面積ha | 機能 |
|-----------|-----------|-------|--|
| 水土保全林 | 国土保全タイプ | 1,506 | 土砂の流出・崩壊、落石等の山地災害による人命・施設の被害の防備その他の安全で快適な生活環境と国土基盤の保全・形成に係る機能を重視 |
| | 水源かん養タイプ | 7,296 | 国民生活に欠かせない良質で豊かな水の供給に係る機能を重視 |
| 森林と人との共生林 | 自然維持タイプ | 3,745 | 原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存等自然環境の保全に係る機能を重視 |
| | 森林空間利用タイプ | 1,713 | スポーツ又はレクリエーション、教育文化、休養等の活動の場や優れた景観の提供及び都市又はその周辺の風致の維持に係る機能を重視 |
| 資源の循環利用林 | | 1,349 | 公益的機能の発揮に配慮しつつ、効率的に木材等の林産物の生産を行うことを重視 |

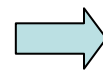
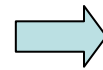


(注) 不要存置林野7haを除く。

(2) 計画の概要

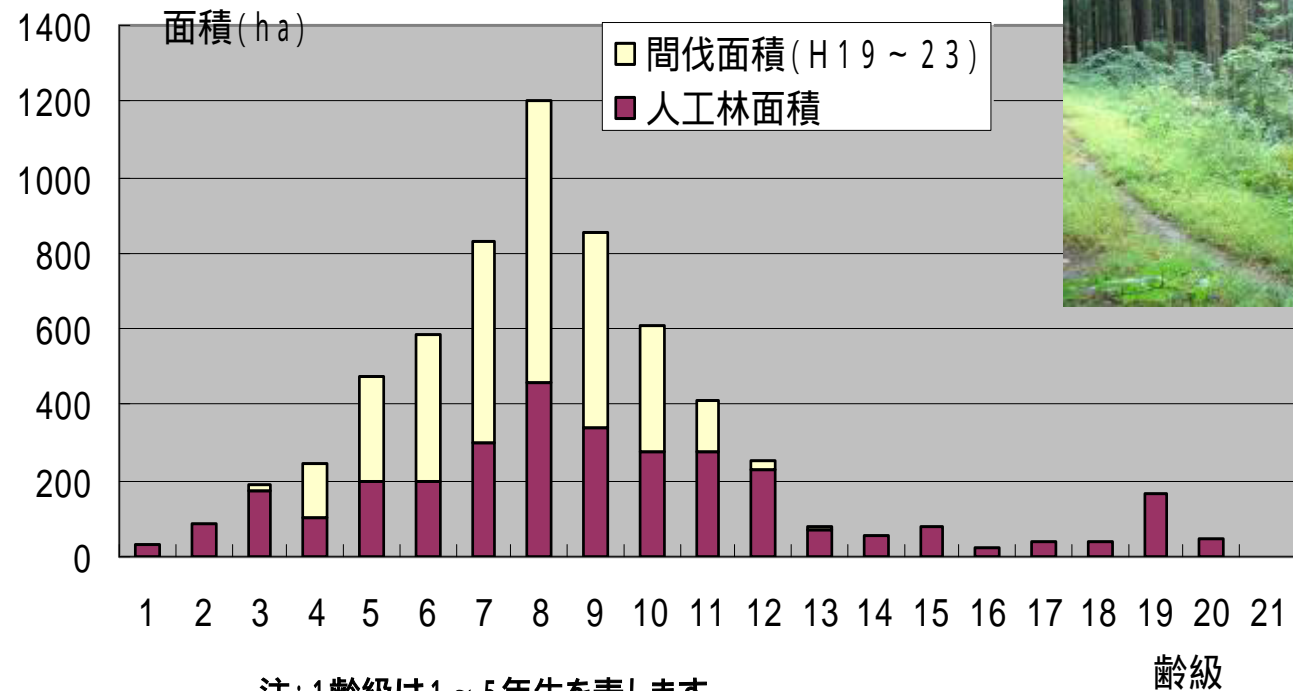
多様な森林づくりの推進

人工林の主体が壮齢林であり、また、本計画区の国有林野の大半が大分川及び大野川等の源流部に位置し水源かん養機能の高度発揮が求められることから、適切な保育、間伐を進めるとともに、天然力の活用等による針広混交林化、伐期の延長による長伐期施業への転換を図っています。



本計画区の人造林の面積は約6,301haで、間伐対象となる16年生から60年生の人造林の面積は約5,460ha(人造林面積の87%)です。

また、現行計画(H19~23)では間伐を約3,101ha計画しており、地球温暖化防止のためにも間伐を推進しています。

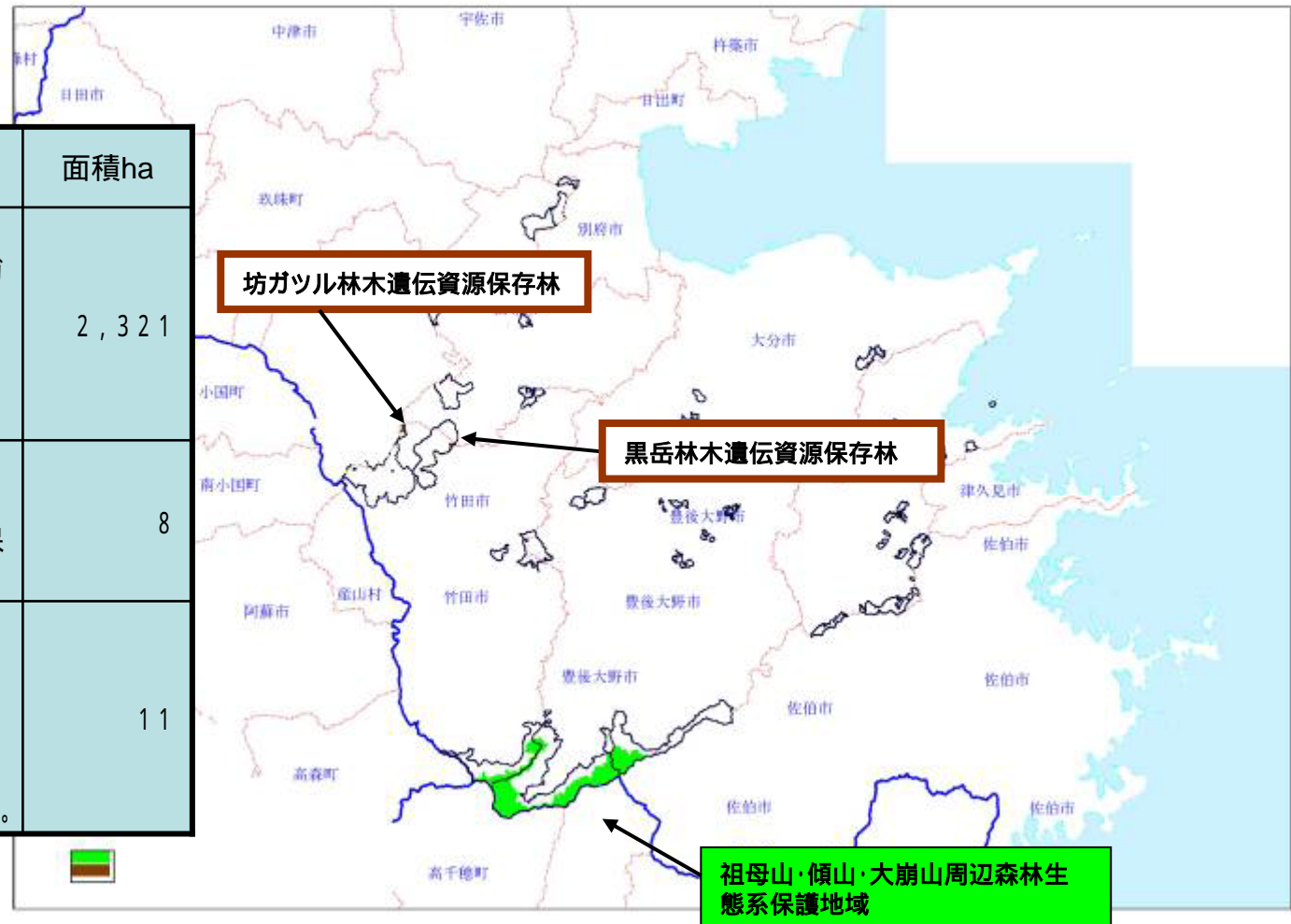


注:1齢級は1~5年生を表します。

保護林の適切な保全・管理

本計画区には貴重な自然環境としての天然林等が多数存在しており、保護林を設定し適切に保護・保存を図っています。

| 種類 | 名称 | 特徴等 | 面積ha |
|-----------|--------------|--|-------|
| 森林生態系保護地域 | 祖母山・傾山・大崩山周辺 | ブナ、アカガシ、ウラジロガシ等の原生的な天然林を保存し学術研究等に資する。 | 2,321 |
| 林木遺伝資源保存林 | 坊ガツル | サウゲルミ、ミズメ、ハリギリの遺伝資源保存のため。 | 8 |
| | 黒岳 | ミズメ、ブナ、アカガシ、ハリギリ、ヤマザクラ、イタヤカエデの遺伝資源保存のため。 | 11 |



レクリエーションの森の保健・文化的利用の推進

優れた自然景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツ等に適した森林をレクリエーションの森として設定し、地域の方々に提供しています。

| 種類 | 名称 | 概要 | 面積(ha) |
|-------|-------|---|--------|
| 風景林 | くじゅう山 | 阿蘇くじゅう国立公園内にあって、原始的な天然広葉樹林やミヤマキリシマ等高山植物が群落しており、四季に変化する山容、渓谷美にも優れており多くの観光客や登山者が訪れている。 | 1357 |
| | 祖母山 | 祖母山の峻厳な山容に包まれ、モミ、ツガを主とする針広混交天然林を有し、随所に明澄の渓谷が現れるなど、異色の景観を呈しており、登山やキャンプ、ハキングの場として親しまれている。 | 29 |
| 自然休養林 | 由布鶴見岳 | 別府市を母体とした観光レジャー開発がすすむ近隣にある当該地は、四季折々の変化に富む自然的景観の特色を備えており、利用の方針は登山、ハイキング、ピクニック、展望、自然探勝、動植物鑑賞等を主体とする日帰り型の森林レクリエーション利用を基本目標とする。 | 136 |

レクリエーションの森の位置



国民参加の森林づくりの推進

国有林野をフィールドとした国民参加の森林づくりを推進しています。

森林環境整備に積極的な地元団体の方々と協力して造林地の保全整備を図っています。



森林ふれあい活動として団体にフィールドを提供し、協働して、造林地の保育作業を行い併せて森林教室を実施し自然体験活動に取り組んでいます。

国民や企業の自主的な参加による森林の整備を推進します。



地元小学生や団体による植樹祭を開催し森林環境教育の推進に努めるとともに、「ふるさとの森」造林により、森林づくりに参加・協力したいという学校教育の要請に応えています。

流域管理システムの推進

国有林と民有林の連携をより強化し、より効率的な森林整備を推進します。

林業技術向上のための現地研修会を実施しています。



国有林内において、林業事業者、県の林業普及指導員等も参加して、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムに関する現地検討会を行い、技術の普及に取り組んでいます。

多様な森林とまとまりのあるフィールドを活用した技術開発に取り組み、その成果の普及定着を推進し地域林業振興に寄与しています。



間伐の推進のため「間伐展示林」を設定し、区画毎の特色豊かな間伐方法等の設定状況をご覧いただき、地域の森林の整備に役立てていただいています。

- 1 低コスト林業の実現と木材の安定供給

伐採、造林等の事業の実施の効率化を図りつつ、健全な森林の整備とともに、木材の需要動向や木材産業の状況等を的確に把握しつつ、国有林材の安定的な供給を推進しています。



集成材工場や合板工場、製材工場等の原材料となる木材を安定的に供給する「システム販売」を推進しています。



林業生産コストの削減を図るため、簡易で崩れにくい路網の整備を推進しています。



スイングヤーダーによる集材



プロセッサーによる造材

簡易で崩れにくい作業路の作設技術の普及・定着を図りつつ、列状間伐や作業路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムの普及・定着をさらに促進しています。

- 2 低コスト保育と省力化による木材の安定供給

長引く木材価格の低迷により、林業家の生産意欲が下がっているため、保育作業の省力化と低コスト化を図るためコンテナ苗などを導入し、取り組んでいます。



密着造林などによる林業機械とコンテナ苗を連携させる低コスト保育に取り組んでいます。コンテナ苗による植え付けの省力化及び地拵や下刈の省力化を試みることによる、保育の低コスト化を目指しています。

活着が良く成長が早いコンテナ苗をシカ食害被害対策として、活用できないか試行しています。

安全・安心の確保に向けた治山対策の展開

安全・安心の確保に向けた効率的な治山対策に取り組んでいます。



大分県由布市の由布岳地区等をはじめとする流域内で発生した山地災害箇所等について、民有林治山事業と連携し谷止工等による早期復旧工事を実施しています。



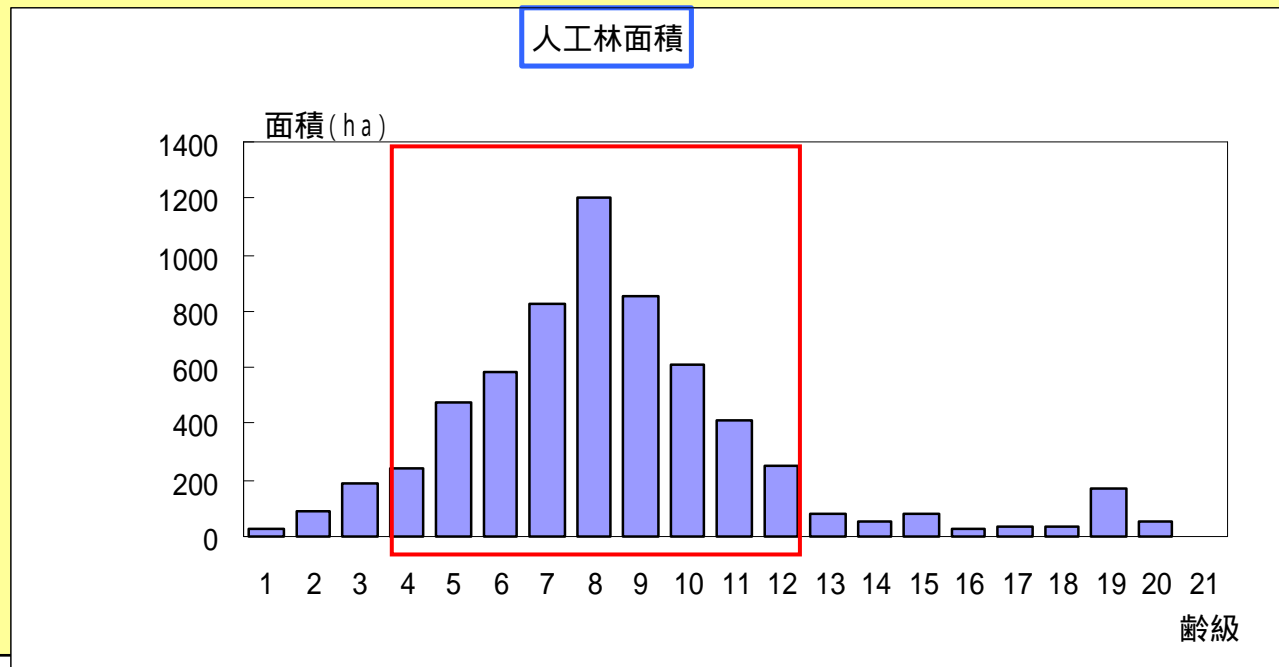
山地災害復旧跡地に治山事業の効果や役割についての PR看板を設置し、自然公園地域内においては景観に配慮する工法も採用しています。

2 次期計画の検討方向

(1) 管理経営上の課題

< 例示 >

- ・本計画区の国有林野が有する水源かん養機能や保健文化機能等の公益的機能の発揮を高め、ていく必要があります。
- ・京都議定書における我が国の温室効果ガス削減目標6%の達成のため森林吸収量1,300万炭素トンの確保が必要であり、森林吸収源対策を推進していく必要があります。
- ・次期計画においても間伐対象となる16年生から60年生の人工林の割合は88%と現行計画と同程度であり、健全な森林づくりのほか森林吸収源対策の上からも間伐を推進する必要があります。



- ・森林病虫害等に強い多様な森林の造成を立地条件に応じ推進していく必要があります。
- ・本計画区には各種保護林やレクリエーションの森を設定しており、これらの国有林野を適切に管理していく必要があります。
- ・本計画区には、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカ等が生息することや原生的な天然林が分布していることから、これの生息環境の保全に留意しつつ、国有林野を適切に管理していく必要があります。
- ・国民参加による森林づくりに関する問い合わせや相談が増加していることから、これらの要請に適切に応えていく必要があります。
- ・国産材の安定供給を実現するため、生産システムのコスト縮減と生産性向上を進める必要があります。
- ・エネルギー原料としての利用等新たなニーズに応えるため、これまで利用してこなかった林地残材等の利用を進めていく必要があります。
- ・国民が安全・安心に暮らせる環境づくりに向けて、治山対策に取り組む必要があります。

(2) 計画内容

- ・公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を行うとの方針の下、多様で健全な森林の整備・保全を行うほか、森林吸収源対策として引き続き間伐を推進する方向です。
- ・貴重な植物種の保護を目的とする保護林及び自然の観察や森林浴などの利用を目的とするレクリエーションの森については、現状を維持する方向です。
- ・原始的な天然林は、自然環境の保全に係わる機能を重点的に発揮させるべき森林として原則として自然の推移に委ねるとともに、生物多様性の保全を配慮した森林施業、森林の保護・管理に努める方向です。
- ・社会貢献活動として森林づくりに参加・協力したいとする企業等の要請に応えるため、「ふれあいの森」制度を活用して、国民参加による森林づくりを推進する方向です。
- ・生産システムのコスト縮減と生産性の向上を図るため、簡易で壊れにくい路網の整備を引き続き推進する方向です。
- ・これまで利用されてこなかった林地残材等の有効利用を図るため、これらを含む国産材のシステム販売に努める方向です。
- ・民有林と連携して効果的な治山事業の実施に取り組むとともに、地域住民と協働して災害を減らす対策を進める方向です。